

## はじめに

4月と言えばエイプリルフール。アメリカではきつといたるところで騙しあい騒り広げられるんだらうなあと期待していましたが、特に何もなくて一日が終わりました。私としては、今がもう4月で、来月には帰国しなければならないという事実が嘘であって欲しいものです。さて本報告書では、4月中のイベントを中心に、私がアメリカで得た思い出などについて述べていきます。

## 期末試験に向けて

アメリカの大学では5月上旬に期末試験週間があるため、4月下旬になると学生が夜遅くまで勉強や課題をやっている姿をよく目にします。キャンパスには24時間開放されている大きな図書館が2つあり、夜中でもパソコンの横に参考文献を山のように積んで勉強している学生がいたりします。ただ、期末試験のない科目もあるので、忙しさは人によってまちまちのようです。実技やチーム活動がメインの授業だと期末試験はないですね。友人の中に5つの授業をとっている人がいますが、期末試験があるのは2つのみで、残りはプロジェクト活動なので試験はないそうです。ちなみにその友人は、5月初めにシカゴでプログラミングの学会発表があるということで、勉強と学会準備でかなり忙しそうにしていました。

## イースター

4月16日にはキリスト教の最重要行事であるイースター（イエスの復活祭）がありました。その1週間は断食するのがキリスト教徒にとって一般的らしく、私の知人も日中は水以外の全てを絶っていました。ただ、キリスト教以外にも言えることですが、断食といってもどの程度まで許容するかは人によるらしいので、厳格に守っている人は少ないのかもしれない。私なら間違いなく食の誘惑に負ける自信があります。イースター当日は、教会に大勢で料理を持ち寄って、食事をしながらイースターにまつわるクイズ大会をしました。食後には、卵型やウサギ型のチョコレートをカラフルな包み紙で包んだお菓子や、マシュマロみたいなものを食べましたが、アメリカなので味はもちろん激甘です。ちなみに、イースターの象徴である卵とウサギについては、卵は生命の誕生を、ウサギは豊かな生命の象徴を意味します。

## Farewell Dinner

私があと数週間で日本に帰国するというので、知人らがレストランでの送別会を開いてくれました。キャンパスから離れた場所にある中華料理店でのビュッフェで、どの料理もとてもおいしかったです。アメリカで一番よかった思い出や、帰国後の予定などを話しながら、胃に入るだけ詰め込んできました。いろんな人に、もう帰国なんて信じられないと言いましたが、本当にそう思います。留学生生活を満喫するには、正規留学で4年くらいいないと足りないと思いました。



図 中華料理レストランでの Farewell Dinner

ほんとうは、帰国前に友達同士でバーでお酒を一緒に飲めたらよかったです。知り合いが基本的に学部生(アメリカでは飲酒可能年齢が21歳なので飲める学生が少ない)もしくはお酒が嫌いな人ばかりなので、残念ながら叶いそうにありません。かわりに、知人や部活の友人とちょっとお高いレストランにいたりしているので、それはそれでいいかなと思っています。

### 心残りなこと

アメリカ滞在期間一年だけだとやりたいことを全てやるのは無理ですね。興味のある授業は数えきれないほどありますし、プロジェクト活動としてチームメンバーと成果物を作り上げるなんてこともやってみたかったです。ただ、現状の英語力と知識量では、自分の専攻分野以外の授業はほとんどついていくことができなかつたので、英語力をかなり上げてからでないと感じました。実は、秋学期に受けた100番台の授業がわりと簡単だったので、今期は興味のある分野(原子核物理学や相対性理論)の200番台にトライしたわけですが、予想以上にレベルが跳ね上がりすぎていて、数式を理解するので精一杯でした。単純に私の知識不足なだけの気もしますが…。

他には、友達とのスキー旅行が流れたことや、釣りにいって結局一匹も釣れなかつたことなんかも残念ではあります。些細なものですが、ボストンキャリアフォーラムで負けて帰ってきたのも悔しいです。アメリカでやれなかつたことを数え始めればきりがありませんが、次に渡米したときの楽しみとしてとっておこうと思います。

### おわりに

一年間の交換留学プログラムもついに帰国のときが近づいてきました。帰りの荷物を詰め込んだり、リサイクルできるものを友人に渡したりと、慌ただしいなかこの報告書を書いています。これが最後の報告書であることに驚いています。本当にあっという間の一年で、体感としてはまだ半年もたっていないくらいのような気がします。それでも、留学期間の中で、たくさんの友達を作れたこと、留学生交流会などのイベントに参加して初対面の人も話せたこと、国内旅行に何度か行けたことなど、濃密な年を過ごせたと思います。

留学の思い出はいろいろありますが、一番は、英語を使うことによってどの国の人も意思疎通できることに感動したことです。初めに通った英語学校では色々な国の人と英語で話しましたが、どちらかというと、イリノイ大学の授業が始まってからの、日常会話の場面でそれを強く感じました。生活の中での会話のほうが、より“自然”であるからだと思います。他の思い出だと、日本に興味を持っている人が思いのほか多くいることに驚いたことでしょうか。日本への留学を希望する学生や留学経験がある学生、多少日本語が喋れる学生などが、驚くほど数多くいました。日本国外にくることで、初めて世界における日本の存在の大きさを感じました。

さて、私がこれまでで一番嬉しかったこと、それは、たくさんの人に、帰国した後も時間を作って絶対に戻ってこいよと言ってもらえたことです。在学中は難しいですが、就職後に海外派遣もしくは留学制度を使って、再びアメリカに来ることができたらいいと思っています。

4月分の報告は以上です。